


事業名称	北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業			
実行委員会	東田ミュージアムパーク実行委員会			
中核館	北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）			
	住所	〒805-0071 北九州市八幡東区東田二丁目4番1号		
	TEL	093-681-1011	FAX	093-661-7503
	ホームページ	http://www.kmnh.jp/		
構成団体	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州イノベーションギャラリー ・北九州市立環境ミュージアム ・北九州市立児童文化科学館 ・北九州市立美術館 ・北九州市役所市民文化スポーツ局文化企画課 ・北九州市八幡東区役所総務企画課 ・北九州市役所建築都市局まちづくり推進室 ・公益財団法人北九州国際交流協会 ・公益財団法人北九州観光コンベンション協会 ・公益財団法人北九州産業学術推進機構 ・八幡東田まちづくり連絡会 			
事業開始時点の課題分析	<p>北九州市八幡東区東田地区は、官営八幡製鉄所が操業した我が国の産業革命発祥の地である。その後、産業構造の転換に伴い工場用地の遊休地化が進んだことから、1990年のスペースワールドの開業を皮切りに、ジャパン・エキスポ北九州博覧祭の開催や大型商業施設の開業、環境都市・北九州の最先進モデル地区への指定など、官民一体の大規模都市再生事業が進められてきた。</p> <p>このような状況の中、2017年末にスペースワールドが閉園したことで、現在、東田地区はその賑わいが大きく失われる可能性に直面している。</p> <p>しかし、その一方で、2021年以降にスペースワールド跡地での超大規模集客施設の開業と市立児童文化科学館の移転が予定されており、集客ポテンシャルの急激な増大が予想される。</p> <p>さらに、2020年、北九州市での東アジア文化都市開催が決定したことで、文化・芸術を軸とした国際都市間交流や賑わいづくりも大きく期待されている。</p> <p>そこで、これまで必ずしも十分ではなかった施設間の連携や回遊性の向上、急増する訪日観光客対応といった対策を講じることが今後の東田地区の課題となっている。</p>			
事業目的	<p>東田第一高炉などの産業遺産、ミュージアム群、先端技術を持つ企業の集積など、既に根付いている資源を活かしつつ、2020年東アジア文化都市の開催を機に、八幡東区東田地区になかった新しい芸術文化を取り込み、新たなまちの価値を創り上げる。</p> <p>【東田地区の変遷と今後の姿】</p> 			

東田地区に点在している文化施設や世界遺産を文化クラスターとして面的に結び付け、観光客等の回遊性を高める。

また、北九州市自然史・歴史博物館を中心に文化クラスター内の連携・協力を推進し、2020年に東田地区でアートフェスティバル「ART for SDGs (仮称)」の開催を目指す。

異なる行政組織が所管する歴史、美術、自然史、産業技術、環境、科学等をテーマにした複数のミュージアムに横串を通す組織横断的プロジェクトを展開する。

【東田ミュージアムパーク イメージ図】



事業概要

【北九州市及び東田ミュージアムパークのロードマップ】



区分

- (1) 地域の歴史、地域の有形無形の文化財との連携、地域の人材交流
 - ア 地域の文化財の魅力発信
 - イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実
 - ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化
 - エ 専門人材の育成・確保
- (2) 地域の文化施設等との連携
 - ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施
 - イ 美術館・歴史博物館クラスター（集積地）としての広報活動

実施項目
・
実施体系

1. 地域の歴史、文化財の魅力発信のための取組
 - (1) 魅力向上のための関連行事の開催
 - 東田まちづくりを考えるシンポジウムの開催
 - 地域の歴史、文化財を活用した企画展の実施（食のたび展）
 - (2) 文化財を掘り起こし、歴史的・学術的な価値づけによる新たな活用
 - 収蔵品のデジタルアーカイブ化に向けた取組
 - (3) 多様な活動の充実
 - 東田地区ミュージアムパーク創造事業基本構想の策定
 - (4) 博物館の情報発信機能の強化
 - 東田地区紹介ホームページの開設
 - 多言語化 美術館インバウンド用パンフレットの作成
 - (5) 専門人材の活用・育成
 - コーディネーターを活用した地域主体の仕組み作り（実行委員会の開催）
 - 有識者を招いての現地視察及び意見交換
2. 地域の文化施設との連携（フィールドミュージアムの形成）
 - (1) 歴史をテーマとした、文化施設等が連携した面的・一体的な企画展等の実施
 - 連携企画展の実施（食のたび展、光のふしぎ展の開催）
 - オープンスペースを活用した連携イベントの開催（食の祭典2018）
 - (2) 総合ビジターセンター設置による多言語に対応した共同ツールの開発・運用
 - 東田地区紹介ホームページの開設等

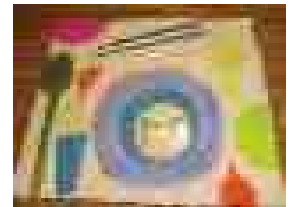
実施後の
成果・効果等

今年度は本事業の開始年度にあたり、近隣3館の施設連携を進めるため、各館の連携企画展を開催。相互に館のPR広報にも取り組み、一つのクラスターとしての盛り上げに取り組んだ。また、同時期にオープンスペースにおいて2日間のイベントを開催し、東田地区への集客増加と初めての3館による連携スタンプラリー（3館回ってランチョンマット完成）の企画実施により、回遊性の向上を図った。
(食の祭典の参加者数：9,295人)

【食の祭典・食のたび展の様子及びチラシ】



【ランチョンマット完成】



また、東田地区とその近郊の施設情報を集約した利便性の高い、魅力あるコンテンツとして、広く国内外にアピールできるようなホームページ制作にあたった。

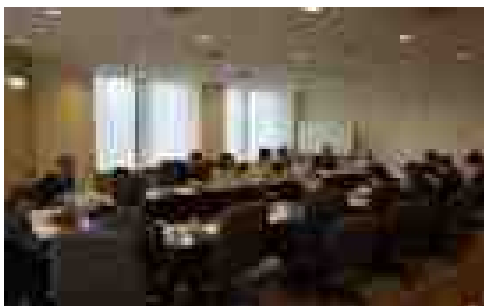
【東田ミュージアムパーク ホームページ】 <https://higashida-museumpark.jp/>



さらに、2020年の東アジア文化都市開催に合わせたシンボルイベント「ART for SDGs (仮称)」の企画準備に向けて、有識者(東京 森美術館館長)を招き、関連施設の視察や地元人材との意見交換を行い、知識の吸収やアイデアの醸成を図った。

そして、関係組織を横断的に集めたワーキングを実施し、この文化クラスターが未永く東田地区ににぎわいと集客をもたらす将来像を見据えた基本方針等を定めた基本構想を作成できたことは事業開始年度の大きな成果である。

【基本構想及び策定ワーキングの様子】



<コーディネーターの声>

様々に関わっている方が楽しく、意見を出し合える、一体的なプロジェクトになるように一緒に盛り上げて頑張りましょう。

事業内容	基本方針	実施方針
基本構想	基本方針	実施方針
基本構想	基本方針	実施方針
基本構想	基本方針	実施方針
基本構想	基本方針	実施方針